

「キリストの教会になる」 エペソ1:23

1:23 この教会はキリストのからだであって、すべてのものを、すべてのもののうちに満たしているかたが、満ちみちているものに、ほかならない。

● 著論

マーティン・ルーサー・キング牧師、暗殺される前日に語ったメッセージ。

…前途に困難な日々が待っています。…

私は皆さんと一緒にいけないかもしれないが、
ひとつの民として私たちはきっと約束の地に到達するでしょう。

…前途に困難な日々が待っています。

今夜、私は幸せです。心配も恐れも何もない。

神の再臨の栄光をこの目で見たのですから。

印象的なのは、最期の2行です。

今夜、私は幸せです。心配も恐れも何もない。

神の再臨の栄光をこの目で見たのですから。

”キリストの再臨を夢見る”。それは、まさしく教会のすがたです。

このメッセージを聴いて、パウロの言葉を思い起こしました。

ピリピ3:13-14

兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。
すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。

教会に目を移して思い起こしていただきたいのです。都島中央キリスト教会は、60年前、多くの人々の献身と祈りの中で立てられた群れです。

ある意味で、その教会形成は、「教会を建て上げる運動」ともいえるかもしれません。この教会もキリストの再臨する日を思い見て、この地上での使命に生きる教会とされているのです。そうして初めて、この教会は「キリストの教会」と認められるでしょう。

1:23 この教会はキリストのからだであって、すべてのものを、すべてのもののうちに満たしているかたが、満ちみちているものに、ほかならない。

はたして、キリストご自身が、キリストご自身の思いが詰まった教会であるということはどういうことなのでしょうか。

● 本論

I. 神の祝福が注がれています

1:23 この教会はキリストのからだであって、すべてのものを、すべてのもののうちに満たしているかたが、満ちみちているものに、ほかならない。

「すべてのもの」とは何でしょうか？

エペソ人の手紙で最初にパウロは語っています。

1:3 ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神はキリストにあって、天上で霊のもろもろの祝福をもって、わたしたちを祝福し、

1:4 みまえにきよく傷のない者となるようにと、天地の造られる前から、キリストにあってわたしたちを選び、

1:5 わたしたちに、イエス・キリストによって神の子たる身分を授けるようにと、御旨のよしとするところに従い、愛のうちにあらかじめ定めて下さったのである。

新改訳聖書では、「天にあるすべての霊的祝福」と訳しています。

「霊的な祝福」という表現は、聖書の中に特徴的な表現ではないでしょうか。

普通は、人々が、そして私たちも求める「祝福」というのは、おそらく「目に見えるもの」「この地上で受けるもの」の意識が強いでしょう。

しかし、神様は、目に見えない、しかしもっともすばらしい祝福を備えてくださっていることをここで証ししているのです。

簡単に上げます。それは「選び」そして「神の子の身分」です。

「神の子の身分」

わたしたちは、まさに神様にとって子供とされているのです。神様を親しく「お父さん」と呼ぶことのできるかけがえのない、暖かい関係をいただいているのです。

この世は、「そんな関係で飯は食えない」というかも知れません。

しかし、教会は語るのです。わたしたちになくてならないのは、この霊的な祝福であると。

Ⅱ. キリストの命が注がれている

1:5 わたしたちに、イエス・キリストによって神の子たる身分を授けるようにと、御旨のよしとするところに従い、〈愛のうちに〉あらかじめ定めて下さったのである。

わたしたちに選びが、そして祝福が与えられる唯一の理由は「神様がわたしを愛してくださっているから」です。「愛の中」で、これらの祝福を私たちに下さったのです。

「神の子」という、とても短いさんびがありますね。

何ができて、できなくても。何を得ても、失っても。

ただ愛されている、天の父にわたしは神の子♪

一方で「ただ愛されている」というメッセージは、聞こえるけれどもつかみ取れないもののように思うかもしれません。

イエス・キリストの十字架はあなたの罪の贖いのためだと言われtも、ただ聞くだけでは…、そう思っているかもしれないわたしたちに、不思議が起こる、それが愛を経験する、そして命が流れてくることを感じる…というものです。

この世と世にある見えるものに囚われた心が決して知ることができない、霊的な祝

福があるのです。

ある人の証しにこのようなものがありました。

私は以前、ずっと長い間、心が渇いていました。それも自分で意識しないくらい慢性的になっていました。そんな時、この教会に来ました。そして、ただ、「お話を聞きに来ました。」と言って入って行ったのです。そして、祈ってもらいました。

次の日曜日、礼拝の中で、賛美を聞いただけで、涙が出てきました。牧師さんのお話を聞いた時も、今では何を聞いたのかまったく覚えていません。しかし、神様を体験したのです。涙が出て止まりませんでした。神様の愛、喜び、もうなんと表現してよいか、わからないほど神様に触れられました。心がいっぱい満たされたのです。

今まで長いこと、渇いて、渇いて干からび切っていた土に、水がたくさん流れ、しみこんでいくようでした。それから毎週礼拝にでるたびに、神の愛に触れられました。

教会は、「キリストのからだ」「キリストがおられるところ」ですから、ここに来ると、本当に神様の愛や、なぐさめを体験する場であってほしいのです。

Ⅲ. 信徒の方々の献身あります。

わたしたち信徒の群れが、「教会になる」「教会へと成長する」のは、何故でしょう。

思えば、初代教会の時代には、教会という建物もなく、さまざまところで礼拝しながらも、人々は彼らをクリスチャンと呼び、またその集いがキリスト教会と呼ばれるようになっていったのです。

それは奇しくも、外部からの迫害が始まり、使徒9:2にあるような「この道の者」として注目される存在・立場が明確になった時からなのです。

それは迫害や問題の中で、彼らの信仰の基にあるキリストの命・神の愛・神様の情熱が見えたからです。それが彼らの歩みと言動に鮮明にあらわされていた結果なのです。

当時は、公に福音を言葉に表し、伝えることはなかなかできなかったかもしれませんが。けれども、彼らを”見た”人は、そこにクリスチャンという”違い”を経験するので

「ノンバーバルコミュニケーション」という言葉をご存じでしょうか？

身振りや手振りや表情、ふるまいやかもしたす雰囲気や態度…など、言語以外でコミュニケーションを取ることです。

それが初代教会も経験した教会での経験ではないでしょうか。

1:23 この教会はキリストのからだであって、すべてのものを、すべてのもののうちに満たしている（愛の）かたが、満ちみちているものに、ほかならない。

おわりに)

先日、「ボクはやっと認知症のことが分かった」という本を読みました。有名な精神科のお医者さんで、今も全国で使われる長谷川式と言われる診断スケールを作られた方、その方が、自らも認知症を発症したことを告白して、その経験を本に記されているのです。

「最後に、…私たちは妹背を契る家のうち、私たちの父なる御神のもと、御名を賛美しつつそれぞれの絆を大切に暮らしていくことに努めたい。…普通に暮らしていくことは、それ自体がじつは神様からいただいている特別のスピリットに満ちた宝物なのだ。このことを常に忘れずに、平和な暮らしに感謝しよう。

御言葉を思い起こします。

マタイ5:16 そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

困難の中でも、キリストを信じる者らしく暮らすことのできるための”源泉”を覚えていただきます。それが教会です。

1:23 この教会はキリストのからだであって、すべてのものを、すべてのもののうちに満たしている（愛の）かたが、満ちみちているものに、ほかならない。

この言葉を受けとめることもまた、信仰の事柄です。礼拝の中にある、主の臨在、慰め、導きに、そこで語られる霊的なことばに心を開いて受け取り、わたしたちを、あなたの愛でつくり変えてください、そう祈る者であれば感謝です。